町長コラム

町長室からこんにちは No.10

大きな建物と小さな建物

最近東京へ出かけるたびに、レインボーブリッジを通ります。豊洲の新市場の建築など眺めながらいくわけですが、その際にいつも思うのは、東京は高層ビルが随分増えたなということです。

私がまだ若いころ、霞が関ビルができ、その後新宿西口一帯に高層ビル群ができて、東京は高層建築時代となりました。いまや湾岸をはじめ、至る所に高層ビルが建てられています。恐らくひとつの高層ビル内には、数千、場合によっては万に上る人々が働いたり住んだりしているのでしょう。翻って一宮町には、高層建築はほとんどありません。まして超高層建築などは存在しません。

こうした中で、今後我々の進む方向はどう考えたらよいでしょうか。全体としては、一宮町のような中小都市では、高層建築を増やしていくことは、注意して進めるべきだと思います。というのは、現在日本全国で人口減が始まっています。1億2千万の人口が50年後には8千万台まで減るといわれています。東京・名古屋・京阪神の三大都市圏に人口が集中し、それ以外はますます人口が減っていくということです。

一宮町長
馬淵 昌也

すると、大都市圏以外では、大規模建築の劣化が進んでいくときに、日常管理や修理、あるいは取り壊し、建て替えなどの費用などが、人口が減ってしまう中で確保できるかどうかわからないことになります。特に、維持・取り壊しの費用が賄えないとなれば、あとはスラム化・廃墟化の道しか残っていません。それは、景観を悪化させるだけでなく、犯罪などの温床にもなり、地域にとっては大変なマイナスになってしまいます。

そうした見通しからすれば、今後の方向は、おのずと見えてくると思います。小規模の建築を主に考えていくべきだということです。小規模の建築ならば、維持管理、更新ともに費用は少なくて済みます。劣化への対応が容易です。私は、今後我々が目指すべき道は、これ以外にないと考えます。

田舎は田舎のよさを堅持したほうが、未来に続く安定した環境を確保していけると思います。等身大の町でいきましょう。中途半端な「都会」を目指すのは、よした方がよいでしょう。